



平成20年 3月31日

第 6 号

平成19年度事業概要

多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。その概要を紹介します。

■公文書分類センター

合併により旧市町村から引き継いだ公文書等の散逸防止と歴史的文書の保存を目的として、各出張所庁舎内に設けた6か所の公文書分類センターに、平成19年4月までに約2万箱の長期保存文書（一部有期限文書を含む）が収納されました。

今年度は、味方・横越公文書分類センター収納文書の整理・目録作成業務を実施しました。味方センターでは合併市町村の総務課・議会事務局の外、旧新潟市総務局の長期保存文書の目録化が完了しました。また、横越センターでは、地籍調査を継続している地区を除いた旧8市町村分の旧更正図（地籍図）の目録化が完了しました。

センター	主な収納文書	整理計画
味方	旧14支所の総務課および旧新潟市総務局の長期保存文書	H19年度完了
小須戸	旧5支所の総務課以外の課および全市の教育委員会の長期保存文書	H20・21年度
岩室	旧9支所の総務課以外の課および旧新潟市総務局以外の長期保存文書	H20年度
横越	全市の旧土地台帳および旧更正図（地籍図）等	H19・20年度
月潟	旧14支所の国土調査・建設補助の文書	H21年度
潟東	新潟市の有期限保存文書	—

各公文書分類センターの概要

■資料の公開

歴史資料整備室で古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図は横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備室に連絡をお願いします。

今年度の一般利用状況は次のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	46	37	68	9	2	162
複写	71	34	104	14	34	257
掲載	8	0	8	0	48	64
計	125	71	180	23	84	483

(平成20年3月31日現在)

■資料の保存

①資料の整理

歴史資料整備室では、新潟市史編さんで収集した資料や寄贈資料等の整理を行っています。

今年度は資料所在調査に伴って、南区茨曾根・関根家文書、西蒲区和納・横山家文書、秋葉区小須戸・小柳家文書の整理及び目録作成作業に着手しました。また、すでに整理が終了した資料のうち、鳥屋野連絡所文書目録、上大川前通斎藤家文書目録のデータ化も実施しました。

これらのうち保存のため、関根家文書の中世資料及び絵図など8点を大判ポジフィルム（4×5インチ）に撮影しました。

②資料のマイクロフィルム撮影及び複製本の作成

歴史的な文書等のマイクロフィルム撮影と焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルムの本数は100本、作成した複製本は下記のとおりです。B5判、1冊約90ページです。

- ・鳥屋野連絡所文書（明治～昭和期）：261冊
- ・上大川前通斎藤家文書（明治～昭和期）：299冊

③映像資料の複製

東堀通斎藤家旧蔵の16ミリ白黒シネフィルム（戦前）22本のDVD化を実施しました。



昭和12（1937）年撮影の住吉祭りの様子

④歴史資料の補修

傷んだ旧更正図（地籍図）・絵図等の裏打ち・軸装補修を実施しています。今年度は、旧新潟市内の旧更正図22点を補修しました。

■資料の調査収集

①資料所在調査

平成17年度より、合併市町村の主な民間所在資料の現状確認調査を実施しています。平成19年度は白

根・亀田地区で37か所の調査を実施しました。

②歴史的公文書の引き継ぎ

平成6年度より、廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別して歴史的な文書として引き継ぎ保存しています。平成19年度は544点、文書保存箱にして43箱を引き継ぎました。

③資料の購入

明治10(1877)年4月～40(1907)年12月、昭和2(1927)年1月～5(1930)年12月の『新潟新聞』のマイクロフィルム117本を購入しました。

■『新・新潟歴史双書3 石油王国・新潟』の刊行

平成合併後の「新・新潟歴史双書」の3冊目として、『石油王国・新潟』を刊行しました。新潟県では石油が縄文時代から利用され、明治時代末期以来現在に至るまで、国内最大の産油量があります。本書は、新潟市内外の油田やガス田、製油所、これらに関わった郷土の人々などを通して、新潟の石油産業の歴史を記したものです。

市歴史博物館(みなとびあ)・石油の世界館と市内の一部書店で、4月下旬から販売します。

・四六判、約150ページ、価格800円(消費税含む)

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

平成19年10～11月の4日間、新潟市生涯学習センターにて実施しました。

各開催日の講義名と講師は、次のとおりです。

平均参加者数は27名でした。

Table with 3 columns: 日程, 講義名, 講師. Rows include dates like 10/4, 10/11, 10/25, 11/1 and topics like 「新潟誕生」の一考察, 「日本書紀」の淳足柵造営記事を読む, etc.

受贈資料

下記の文書・図書・刊行物等、多くの資料を寄贈いただきました。(敬称略)

- ・宝暦4年御条目写ほか
・新潟市南区 滝沢昌三
・明治27年大字馬堀村更正図ほか
・新潟市中央区 伊藤蘇美
・天明元年水澤新田検地帳ほか
・新潟市南区 木下勝比古
・昭和3年越後笹川家所蔵品札入目録ほか
・新潟市南区 坪井 守

歴史文化施設紹介 — 豊栄博物館 —

豊栄博物館は旧豊栄市市街地の東部にあります。昭和56(1981)年3月、現在地に移転オープンしました。

特筆されるのは、国際的な活躍をした郷土の書家弦巻松蔭の作品と松蔭が収集した作品・文房具・郷土玩具などを陳列した常設展示で、6,000点を超える松蔭コレクションが収蔵されています。

この外、博物館では、北区の歴史と文化をテーマとした企画展や巡回展の受け入れ、体験教室、北区文化財保護事業、資料購入や寄贈資料の受け入れなどの事業を行っています。

<案内>

- ・開館時間：9：00～17：00
・休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始
・入館料：無料
・所在地：新潟市北区嘉山3452番地
・電話：025-386-1081
・交通：国道7号新新バイパス競馬場IC・豊栄ICより車で10分、日本海東北自動車道豊栄新潟東港ICより車で5分、JR白新線豊栄駅から徒歩15分



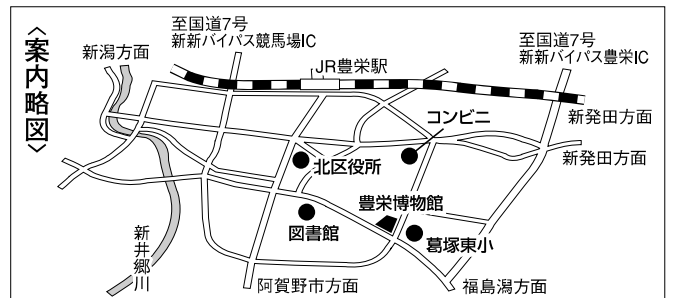
豊栄博物館



常設展示



「こども博物館」



収蔵資料紹介 ⑥

■明治41(1908)年「河川生産物払下ケ願」

掲載した資料は、秋葉区小須戸の阿部家に旧蔵されていた文書の一つです。その内容は、明治41(1908)年に小須戸町鎌倉新田・横川浜の3人が、横川浜地先の信濃川河川敷における河川生産物(萱)の払い下げを県知事に申請したものです。文書には小須戸町役場の経由印があります。

蒲原地方では、川辺などに生える芦のことを、萱ともいっていました。芦は、萱と同様に屋根・壁の芯・簀などに使われていましたが、茎の中が空洞で腐りにくいため屋根葺き材では最良とされていたようです。茎が硬くなる頃の、稲刈り後の11月初旬から下旬にかけて、毎年各地の河川敷などで芦を刈る風景が見られました。文書の日付から、ここに記されている萱は芦のことと考えられます。

人々は河川の恵みを受ける一方で、毎年のように起こる水害に悩まされていました。

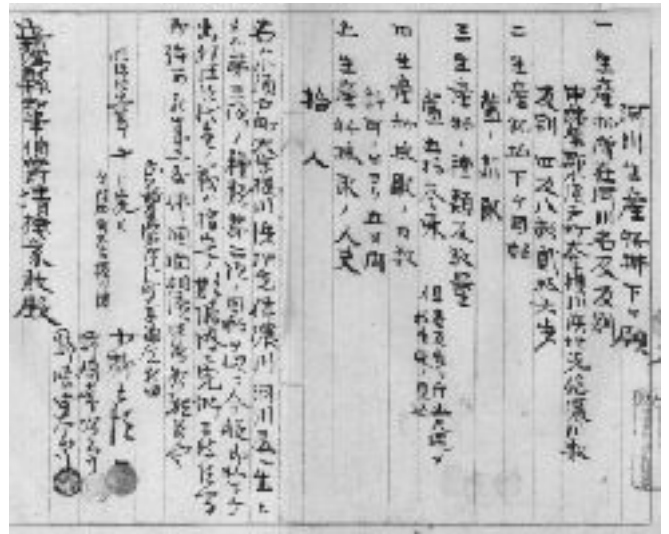
明治8(1875)年、財政難などのため大河津分水開削工事が中止されると、政府は分水に代わる治水対策として、19年から信濃川の河道や堤防を強固にする改修工事を開始し、35年に竣工しました。

この工事に伴い、堤防用地や河道となる民有地の国や県による買収が進み、萱場として以前から利用していた土地を失う人も続出しました。

また、29年には「河川法」が公布され、信濃川河川敷は新潟県の管理になりました。河川敷を使用したり、そこに自生する萱などを刈り取るには、県の許可が必要となったのです。

掲載の文書では、申請者3人が5日間10人の人夫を雇い、約4反8畝(約40.8アール)の河川敷から直径48センチメートルほどの束で、53束の萱(芦)を刈る予定になっています。また、萱の払い下げ代金を、指定期限内に支払うことが記されています。さらに、添付されている図面では、申請者のうち、河川敷から離れた鎌倉新田の1人にほとんどの萱が払い下げられることになっていることから、この人が申請の中心人物であったと推測されます。

ところで、横川浜から約4キロメートル上流の信濃川左岸の馬場屋敷遺跡(南区庄瀬)からは、鎌倉時代の萱刈りの鑑札(許可証)が約10点出土しています。河川敷に自生する萱と、それを利用する沿岸の人々との密接な関わりは、中世以来変わらないものだったのです。



新潟県知事伯爵清棲家教殿
 河川生産物払下ケ願
 (経由印)
 一 生産物所在河川名及反別
 中蒲原郡小須戸町大字横川浜地先信濃川敷
 反別 四反八畝式拾六歩
 二 生産物払下ケ目的
 萱ノ苜取
 三 生産物ノ種類反数量
 萱五拾参束 但 志反歩ニ付五尺繩ノ
 拾壹束ノ見込
 四 生産物採取ノ日数
 許可ノ日ヨリ五日間
 五 生産物採取ノ人夫
 拾人
 右ハ小須戸町大字横川浜地先信濃川河川敷へ生シ
 タル第三項ノ種類、第二項ノ目的ヲ以テ、今般御払下ケ
 出願仕候、代金ノ義ハ指定ノ期限内ニ完納可致候間、
 御許可被成下度、依テ図面相添へ此段相願候也
 中蒲原郡小須戸町大字鎌倉新田
 明治四十一年十月廿九日
 小柳喜一 印
 同郡同町大字横川浜
 野崎常次郎 印
 野崎由太郎 印



(花押)
 (焼印)

(吉江) (萱) (札)
 よしへのかやのふた
 (二二九三)
 正応六年正月日

(裏) (表)
 馬場屋敷遺跡出土の萱刈りの鑑札

■ガラス板幻灯の広告

右の写真は、安部石油店と東洋物産株式会社の幻灯広告のガラス板で、平成10（1998）年に寄贈されました。新潟市歴史博物館（みなとぴあ）で保管されており、歴史文化課には紙焼き写真があります。今年度刊行の『新・新潟歴史双書3 石油王国・新潟』では、口絵カラー写真として掲載されています。

資料を寄贈された方の祖父は、明治30年代に「北越幻灯広告舎」という広告代理業をしていて、商店や料亭、旅館などの幻灯を作っていたそうです。

幻灯とは、ガラス板に彩色を施して描いた風景や人物などの画像を、強い光で照らし、前方に凸レンズを置いて、その画像を拡大してスクリーンなどに映す、いわばスライドのようなものです。映画が普及する前の明治時代に流行しました。幻灯の映像には、広告のほか、各地の名所や官公庁を紹介するもの、衛生や防火などを啓発するもの、災害や事件・事故などのニュースを伝えるものなど、さまざまなものがありました。

写真1は、上大川前通八番町の安部石油店の広告です。石油業の外、肥料の販売や運送業もしていました。この広告によれば、安部石油店は国油共同販売所の特約店です。国油共同販売所は明治37（1904）年11月に設立され、翌年4月には株式会社になるので、この広告は明治37～38年のものと考えられます。右側の「蝙蝠（コウモリ）印」は日本石油、左側の「宝玉印」は宝田石油のマークです。両社は、明治中期に新潟県で設立された日本を代表する石油会社で、大正10（1921）年に合併します。安部石油店では、両社で製造された灯油・軽油・重油・殺虫油など各種の石油製品を取り扱っていることが分かります。

写真2は、東洋物産株式会社が発売する「安全灯油」の広告です。東洋物産株式会社は上大川前通九番町にあり、石油製品の製造販売の外、遠洋漁業や倉庫業・運送業も行っていました。市内第一の資本規模で、明治40年代には特に漁業が好調でした。



写真1 安部石油店の幻灯広告



写真2 東洋物産株式会社の幻灯広告

白山浦に製油所があり、軽油・機械油・ピッチなどを製造しました。広告にはアラビアンナイト（千夜一夜物語）をモチーフとした絵とともに「引火点百二十度」と書かれており、普通の環境下では安全灯油が引火しないことを強調しています。

明治後半から大正時代にかけて、新潟では新津油田の隆盛などを背景として、白山浦や関屋、沼垂などに製油所が設けられたり、石油採掘機械を製造する新潟鉄工所が創業したりするなど、石油産業が発展します。石油製品の幻灯広告は、このような在りし日の新潟の姿を思い起こさせてくれます。

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、教えてください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課（担当：歴史資料整備室）
〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp